

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：12602

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23249091

研究課題名(和文) 看護職の育児支援介入研究 乳幼児精神保健の看護実践

研究課題名(英文) Parenting support intervention by nurses: Nursing intervention based on Infant Mental Health

研究代表者

広瀬 たい子 (Hirose, Taiko)

東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授

研究者番号：10156713

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 23,300,000円

研究成果の概要(和文)：乳幼児精神保健に基づくJapanese Early Promotion Program (JEPP)を用いた看護職による育児支援介入効果を明らかにした。これは母親が子どもに適切に対応し、母子相互作用を促進するためのプログラムである。JEPP群の母子15組は、生後1-12か月まで小児科クリニックのIMH看護師から育児支援を受けた。JEPP群母子は120組の横断的に収集された同月齢のコントロール群母子と比較された。JEPP群母親は有意に子どものcueを理解する能力を高め、子どもに適切に対応し、子どもに対する反応性の低さが改善され、母親の育児ストレス、否定的感情を軽減し、自己肯定感を促進していた。

研究成果の概要(英文)：This study investigated the effects of the Japanese Early Promotion Program (JEPP) based on the Infant Mental Health program. The JEPP aims to promote mother-infant interactions by enhancing the mothers' ability to respond appropriately to her child. Mothers in the JEPP group (n = 15) received support from IMH nurses in a pediatric clinic until 12 months of age. The nurses provided positive feedback that emphasized strength of parenting, and assisted the mothers' understanding of their infants. Mother-infant interactions and mother's mental health were assessed at intake, and at 6, 9, and 12 months of infants' age. The JEPP group data were compared with cross-sectional data of the control group (n = 120). The JEPP mothers significantly improved their ability to understand their infants' cues and to respond promptly and unresponsiveness to infants was reduced. Furthermore, the intervention reduced the mothers' parenting stress and negative emotions, thereby enhancing their self-esteem.

研究分野：小児看護学

キーワード：乳幼児精神保健 看護介入研究 小児の虐待予防 育児支援

1. 研究開始当初の背景

わが国の児童虐待が増悪の一過をたどっていることは、マスコミ等でも広く報告されている。法整備や福祉関係の専門家の養成等が行われつつある。しかしながら、虐待の社会的リスクともいえる格差問題が深刻な広がりを見せる中、虐待を防止する有効な対策は明らかにされていない。欧米先進国では、1960年代から児童虐待が指摘されるようになり、虐待された子どもは、それが乳幼児期のような早期であるほど、成人して暴力的な犯罪、殺人、DVにまで進むことが多いこと、脳内の機能・組織の変化等が明らかにされ、脳機能の障害との関連も指摘されている。さらに、子ども時代に虐待を受けた被害者が自分の子どもに対しても虐待を繰り返す連鎖も指摘され、次世代への影響をも視野に入れる必要がある。虐待対策の先進国である欧米では、被虐待児を治療することでは、もはや対応しきれない深刻な事態に達し、予防こそが最良・唯一の対策であると考えられ、さまざまな予防対策・システム・プログラムが開発、実施されている。ヨーロッパ5カ国で研究プロジェクトとして実施された EEP (European Early Promotion Project) は、その代表例である。米国では、IMHの研究、教育、訓練を行い、IMHのスペシャリストを輩出している。わが国においては、乳幼児精神保健という学際的学問分野が導入されたのが1990年代始めであり、欧米に比べると、乳幼児精神保健の理解と実践に関する歴史は浅い。

廣瀬はこれまで、廣瀬を中心とする NCAST 研究会メンバー (看護職を中心として、心理・福祉・教育の専門家 20 名ほどで構成) とともに、乳児・早産児の育児支援介入研究、を 2001 年から継続しており、その成果を発表するとともに、看護実践活動 (2006 年から育児支援外来の設置と運営を行っている) に発展させている¹²⁾。こうした実践と研究の実績を基盤として、本研究に取り組んだ。

IMH の訓練を受けた看護職による母子への看護介入成果を測定するという試みは乏しく、また、出生後早期から継続的な支援体制を開始し、1歳まで乳児と母親との関係性形成をサポートするといった予防的な支援を、最も母子の身近にいる看護職が実施し、その成果を測定するという本格的介入研究は、看護学領域のみならずわが国には非常に少ない。

2. 研究の目的

リスクをもつ親子を対象に IMH に基づく早期介入支援を提供し、その効果を明らかにすることを目的とした。親子は、コミュニティベースのクリニックで、彼らのニーズに合わせて IMH 看護師より支援を受ける。介入は、(a) 母親の子どもに対するキューの読み取りと応答性、(b) 子どもの応答性、(c) 母親と子どもの関

係性、(d) 母親の自尊感情を促進し、(e) 母親の育児ストレスおよび陰性感情を減らすことを目的として行われた。この介入プログラムを Japanese Early Promotion Program (JEPP) と命名し、このプログラムによる介入を受けた母子を JEPP 群とした。また、この介入を望まず、受けることを拒否した母子をコントロール群とした。

3. 研究の方法

(1) 研究対象

リクルート期間は 2012 年 7 月～2015 年 2 月であった。都市近郊における地域の小児科クリニックに来院し、医師が継続した育児支援が必要であると判断した生後 1 か月、2 か月、3 か月の親子が JEPP プログラムのサポートを受ける介入群 (JEPP 群) としてリクルートされた。JEPP 群の構成は、各月齢 5 人ずつ合計 15 人で、男児 6 人、女児 9 人であった。コントロール群は、同クリニックに予防接種や乳児健診で来院した親子である。JEPP 群のベースラインである 1、2、3 か月児と、アウトカムを評価する時期である 6 か月、9 か月、12 か月児がそれぞれ 20 人ずつ合計 120 名リクルートされた JEPP 群は介入効果を測定する縦断データであり、コントロール群は横断データであった。両群は共通する以下の基準 (a) 日本人であること (b) 生物学的な親子であること (c) 重篤な疾患がないこと (d) 同居していることを満たし、研究協力に同意した母子である。

(2) 研究手順

医師が継続した育児支援が必要だと判断した親子は、私たちのもとを訪れ、研究の主旨および介入の必要性、内容について説明を受けた。私たちは研究協力の同意が得られた親子を JEPP 群として割り付け、支援を開始した。初回の面談をベースラインとし、その後は介入支援のタイミングにかかわらず子どもの月齢が 6、9、12 か月時点でアウトカムを評価した。評価内容は JNCATS および CARE-Index における 3～5 分の遊び場面である。場面はビデオレコーダに録画された。

(3) 介入の実際

支援者は、IMH に対する専門的な理解と実践的経験を持つ看護師とそのチームである。チームメンバーには IMH に造詣の深い看護師、保健師、臨床心理士が含まれており、欧米国のスペシャリストもスーパーバイザーあるいは分析者として加わった。

JEPP 群への介入は、クリニック内にあるカウンセリングルームで実施された。カウンセリングルームはプライバシーが確保され、親子がリラックスできるように家庭のリビングルームに近いセッティングとした。必要があれば、授乳や食事もでき、月齢にあった遊具も用意された。親子は同一の支援者 (IMH 看護師) から継続支援を受けた。1 回

の面談は 60～90 分であり、親子の同席を基本としたが、母親の不安が強い場合には母親のみへのカウンセリングも行った。支援間隔は親子のニーズや状況によって決められ、JEPP 群の母親はサポート専用の e-mail アドレスが紹介され、いつでも支援者にアクセスしやすい環境が与えられた。

(4) 変数と測定用具

属性の他に、本研究で用いた測定用具の信頼性と妥当性は確立されている。日本版 Nursing Child Assessment Teaching Scale (JNCATS)、Child-Adult Relationship Experimental Index for Infants (CARE-Index)、日本版育児ストレスインデックス (JPSI)、主観的健康感尺度 (SUBI)、抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)、およびローゼンバーグ 自尊感情尺度 (RSES) であった。

(5) 統計学的分析

コントロール群との差異の検討は、家族形態、世帯収入、出生順位、子どもの性別については、カイ二乗検定を用いて分析し、母親の年齢、教育年数、子どもの出生体重については対応のない t 検定によって分析を行った。従属変数は、母子相互作用の指標として、JNCATS と CARE-Index の得点、母親の精神保健状態の指標として、育児ストレス (PSI) うつ傾向 (CES-D)、心の健康 (SUBI) そして母親の自尊感情 (Self-Esteem) の得点を算出し、分析の対象とした。介入前の分析には、子どもの月齢が 1～3 か月でリクルートされた JEPP 群合計 15 名と同月齢であるコントロール群 1～3 か月児各 20 名、合計 60 名を対応する下位月齢群として設定し、対応のない t 検定によってコントロール群との差異を検討した。介入後の分析は、JEPP 群の評価時期を子どもの月齢が 6 か月、9 か月、12 か月時点としたため、コントロール群の 6 か月、9 か月、12 か月児、各 20 名を下位月齢群として対応させて分析した。介入効果の検討にあたっては、JEPP 群のデータは縦断的データであり、比較検討に用いるコントロール群のデータは横断的データであるため、通常の子どもの状態に対する相対的な指標として、各指標について対応する対照月齢群 (1-3、6、9、12 か月齢) の平均点を引いた相対得点を算出した。つまり、コントロール群の値を基準値にして、JEPP 群の個々の得点から引いて相対得点を求め、それを介入前後で比較する対応のある t 検定をおこなうことにより介入効果の検討を行った。なお、統計的分析には IBM の SPSS (22.0 J) software for Windows を用いた。

(6) 倫理的配慮

本研究は、2012 年 5 月 22 日付東京医科歯科大学倫理委員会によって承認された (承認番号: 1121)。対象となる母親の同意には、子どもの研究協力に関する同意も含まれた。

4. 研究成果

(1) 属性及び介入回数

母親の年齢、教育年数、世帯収入および子どもの出生体重などすべての属性について群間差は小さく、有意差はなかった。医師が育児支援を必要とした判断は母親の育児不安や育児ストレスといった母親側の要因が多く、子ども側の要因では体重増加不良があげられた。

JEPP 群の親子が支援開始から生後 12 か月までに支援を受けた回数は平均 11.3 回 (SD: 5.64) で最少 4 回、最大 27 回とケースによってばらつきがあった。介入のタイミングは、母親の不安の軽減や子どもの順調な発育に伴って、次第に間隔があいていく傾向がみられた。

(2) 2つの尺度による母子相互作用への介入効果

JNCATS 得点において、介入前の JEPP 群 (生後 1～3 か月時) の母親領域のサブスケール得点は、Sensitivity to Cues (8.27)、Response to Child Distress (10.13)、Social Emotional Growth Fostering (8.33)、Cognitive-Growth Fostering (11.67)、Contingency (14.13)、Mother Total (38.40) だった。

この値を対応するコントロール下位群 (1～3 か月時) の平均と比較すると、母親領域「子どもの Cue に対する感受性」、「社会情緒的発達の促進」、「随伴性」と子ども領域の「母親に対する子どもの反応性」がコントロール群より有意に低くこれらの影響を受けて、母親/子どもの合計点 (52.13 点) も低い値を示した ($p < .05$)。介入後の JEPP 群の JNCATS 得点は、12 か月時の平均で「子どもの Cue に対する感受性」(10.07)、「子どもの不快に対する反応」(9.60)、「社会情緒的発達の促進」(8.73)、「認知発達の促進」(12.93)、「随伴性」(16.60)、母親得点 (41.33) だった。「子どもの不快に対する反応」とは、子どもの発育に伴って母親が子どもをなだめる対応が減少する傾向を示すものである。JEPP 群は得点が低下しているが、この傾向は JNCATS データベースの傾向と同じであった。

いずれの得点も介入前からの大きな改善を示しているがコントロール群でも差異がみられているため、この上昇をすべて介入効果と考えることはできない。そこで JEPP 群の得点を、対応するコントロール下位群の平均点から引いて補正した相対得点を用いて介入前と 12 か月時を比較した。すると、JNCATS サブスケール得点において母親領域の「母親の子どもの Cue に対する感受性」、「子どもの不快に対する反応」および「母親の随伴性」で有意な上昇 ($P < .05$) がみられ、介入効果が示された。特に「母親の子どもの Cue に対する感受性」と「子どもの不快に対する反応」は、

6 か月時(介入後3~5 か月)でコントロール群の同時期月齢の平均値を超した。「母親の子どもへの Cue に対する感受性」、「子どもの不快に対する反応」は9 か月時(介入後6~8 か月)にコントロール群より高い値となった。一方子どもについての JNCATS の相対得点では、介入前と12 か月時に有意差はみられず、コントロール群で示唆された子どもの発達による向上と同程度の変化であり、介入効果は確かめられなかった。

CARE-Index においては、「親子の同調性(Dyadic Synchrony)」は、介入前の JEPP 群の平均が4.20 であるのに対して、対応するコントロール下位群の平均が4.28 でほとんど差がなかった($p>.05$)。介入後の12 ヶ月時には JEPP 群の平均は7.47 に大きく上昇したが、同時期のコントロール下位群でも7.15 と得点の上昇がみられた。そのため相対得点は変化せず($P=.434$)、介入効果は示されなかった。行動的側面の各得点を別々に分析すると、母親領域の Unresponsive と、子ども領域の Passive には相対得点に有意な改善がみられた($P<.05$)。これらの母子双方の行動上の傾向は、介入前はコントロール群の同時期(1-3 か月)より強く示されていたが、6 か月時点(介入後3~5 か月)で傾向が弱まり、その後もコントロール群より低い値を示した。また、母親領域の Controlling と子ども領域の Difficult には有意な変化はなく、子ども領域の Compulsive は全期間を通じて JEPP 群には存在しなかった。

(3) 育児ストレスおよび母親の心情への介入効果

母親の育児ストレスおよび心情に関する JEPP 群とコントロール群の平均点、標準偏差も介入前の JEPP 群(生後1-3 か月時)の心の健康(SUBI)の下位尺度得点は陽性感情(42.13)、陰性感情(48.73)だった。対応するコントロール下位群(1-3 か月時)の平均値は陽性感情(42.97)、陰性感情(52.53)だった。両群を比較すると、陰性感情得点がコントロール群よりも有意に低く($P=.021$)、介入前の時点では JEPP 群の心の疲労度が強かったことが示された。しかしながら、母親の心の状況を示すそのほかの変数、育児ストレス(PSI)、うつ傾向(CES-D)および自尊感情(RSES)の平均得点においては、介入前の JEPP 群とコントロール下位群(1~3 か月時)との間に差はみられなかった($P>.05$)。介入後の分析では、JEPP 群の特性が子どもの発達に伴ってポジティブな傾向を示すものと反対にネガティブな傾向を示すものの2つに大別できることが見いだされた。傾向を強めるものは、心の健康と自尊感情である。先に述べたとおり、介入前からすでにコントロール群と差があった陰性感情は、48.73(介入前)から54.87(12 か月

時)と大きく増加し、陽性感情も42.13 から45.13 と子どもの月齢とともに心の健康度が高くなる傾向が示された。これに対してコントロール群は、陰性感情52.53(1-3 か月時)から49.55(12 か月時)、陽性感情は42.97から41.45 といずれの得点も減少し、子どもの月齢が高い方が心の疲労度が強いことを示した。

JEPP 群の母親の自尊感情は、35.40(介入前)から38.27(12 か月時)増加する一方で、コントロール群は、36.70(1-3 か月時)から32.00(12 か月時)と得点が減少し、子どもの月齢が高い方が自尊感情は低下することが示された。育児ストレスと母親のうつ傾向も低下する傾向がみられた。JEPP 群は子どもの発達とともにストレスの低下を示し、親領域の育児ストレス95.40(介入前)から88.60(12 か月時)、子ども領域85.90から72.20、総点181.30から161.30 といずれも大きく値が減少した。これに対してコントロール群は、親領域のストレス95.77(1-3 か月時)から99.00(12 か月時)、子ども領域83.18から74.70、総点178.95から173.30 と親領域のストレスのみが、子どもの月齢がすすむと増加した。特にコントロール群の親領域のストレスが9 か月時点で最も高い値104.10)を示すのに対して、JEPP 群は最も低い値(86.20)を示し、同時期での2群の比較では有意に JEPP 群のストレスは低かった($P=.033$)。母親のうつ傾向は、JEPP の介入前の CES-D 平均値が9.73 であったが、12 か月時点では大幅に減少し5.73 となった。一方で、コントロール群は7.67(1-3 か月時)から10.30(12 か月時)とうつ傾向を強めた。このように全般的にコントロール群で子どもの月齢が高くなると母の精神衛生が低下する傾向が示されたのに対し、JEPP 群では改善傾向が見られた。このことを踏まえて介入効果を検討するために、値の変化に対応するコントロール下位群の平均点から引いて補正した相対得点を介入前と12 ヶ月時で比較すると、育児ストレスの下位尺度である子ども領域を除く項目(育児ストレス:親領域および総点、母親の抑うつ状態、心の健康:陽性感情および陰性感情、自尊感情)においてポジティブな変化が見られた($p<.05$)。すべてを介入効果と言い切ることにはできないが、JEPP 群の方がコントロール群よりも状況が改善する傾向が確認された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 15 件)

1. 廣瀬たい子: 保育士と助産師の連携, 臨床心理学, 12(3), 355-356, 2015 (査読無)
2. 三國久美: 乳幼児看護学はじめての一步(7回), 乳幼児のマルトリートメント, 小児看護 38(13) 1732-1735, 2015. (査読無)
3. 廣瀬たい子: 乳幼児看護学はじめての一步

- (第6回)乳幼児精神保健そのリスク要因と介入 小児看護. 2015.11; 38(12); 1600-1604 (査読無)
4. 廣瀬たい子:乳幼児看護学はじめの一步(第5回)乳幼児精神保健 定義と関係性の発達 小児看護. 2015.10;38(11); 1469-1472 (査読無)
 5. 岡光基子:乳幼児看護学はじめの一步(第4回)乳幼児の愛着 小児看護. 2015.09; 38(10); 1345-1347 (査読無)
 6. 廣瀬たい子:乳幼児看護学はじめの一步(第3回)乳幼児精神保健と関係性の発達 小児看護. 2015.08; 38(9);1209-1213 (査読無)
 7. 廣瀬たい子:乳幼児看護学はじめの一步(1回)乳幼児看護学とは 小児看護. 2015.06; 38(6); 762-764 (査読無)
 8. Satoshi Yago, Taiko Hirose, Aki Kawamura, Takahide Omori, Motoko Okamitsu: Gender, age, and cultural differences in the Japanese version of the Infant-Toddler Social and Emotional Assessment. *Journal of Medical and Dental Sciences*. 2015.12; 62(4);91-101 (査読有)
 9. Keiko Komoto, Taiko Hirose, Takahide Omori, Naoko Takeo, Motoko Okamitsu, Noriko Okubo and Hiroji Okawa. Effect of Early Intervention to Promote Mother – Infant Interaction and Maternal Sensitivity in Japan: A Parenting Support Program based on Infant Mental Health *Journal of Medical and Dental Sciences*. 2015.12; 62(4); 77-90 (査読有)
 10. Satoshi Yago, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu: Interparental Agreement on Ratings of Infants’ Social- Emotional and Behavioral Problems and Competencies *Jacobs Journal of Pediatrics*. 2015.12; 1(2); 1-7 (査読有)
 11. 矢郷哲志, 廣瀬たい子:タッチケアと母相互作用と赤ちゃんもつと遊んで/いやいやのサイン—NCASの観点から、助産雑誌.2014;68(7);584-588 (査読無)
 - 12 Satoshi Yago, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu, Yukiko Okabayashi, Kayoko Hiroi, Nozomi, Nakagawa, Takahide Omori: Differences and similarities between father-infant interaction and mother-infant interaction. *Journal of Medical and Dental Sciences*,2014,61(1),7-16 (査読有)
 13. Keiko Komoto, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu: Nursing Intervention in Infant Mental Health Enhancing Mother- Infant Interaction and Self-Esteem of Adolescent Mothers.: *Journal of Nursing & Care*, 2013, 5 doi:1014172/2167-1168, S5-006 (査読有)
 14. Yukiko Cho, Taiko Hirose, Naoko Tomita, Sonoko Shirakawa, Kimiko Murase, Keiko Komoto, Michie Nagayoshi, Motoko Okamitsu, Takahide Omori: Infant Mental Health Intervention for preterm infants in Japan: Promotion of Maternal health, mother- infant interactions, and social support by providing continuous home visit until the corrected infant age of 12 months. *Infant: Mental Health Journal*, 2013,34(1),47-59 (査読有)
 15. Miho Kusanagi, Taiko Hirose, Kumi Mikuni and Motoko Okamitsu: Effect of early intervention using state modulation and cue reading on mother infant interactions in preterm infants and their mothers in Japan. *Journal of Medical and Dental Sciences*, 2011, 58(3), 89-96 (査読あり)
- [学会発表](計 20件)
1. Satoshi Yago, Taiko Hirose, Aki Kawamura, Motoko Okamitsu, Michie Nagayoshi, Takahide Omori. Regional differences in social-emotional and behavioral problems and competencies in one- to three-year-olds. Zero to Three 30th National Training Institute (NTI) 2015.12.02 Seattle, Washington
 2. Yukiko Okabayashi, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu, Satomi Nomura. Intervention in high-risk mother and infant in Japan. Zero to Three 30th National Training Institute (NTI) 2015.12.02 Seattle, Washington
 3. Keiko Komoto, Catherine Jane Martin, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu, Naoko Takeo, Taeko Teramoto: Early separation to promote relationship of severe postpartum depression mother and feeding disorder baby. Zero to Three 30th National Training Institute (NTI) 2015.12.02 Seattle, Washington
 4. Keiko Komoto, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu: Effects of the Japanese Early Promotion Program Based on the analysis of the CARE-Index. 4th The International Association for the Study of Attachment (IASA) International Conference 2015.11.10 Miami, Florida
 5. Motoko Okamitsu: Cultural aspect of parenting and current dangers in Japan, Parenting Symposium universal cultural & familial aspects. The 4th International Association for the Study of Attachment (IASA) International Conference 2015.11.10 Miami, Florida
 6. 廣山奈津子、大久保功子、廣瀬たい子: 児童虐待に関わる保健師のバーンアウトと自己効力感. 乳幼児保健 学会第9回学術集会 2015.09.26 東京
 7. Noriko Okubo, Motoko Okamitsu, Kumi Mikuni, Taiko Hirose, Yukiko Okabayashi, Michie Nagayoshi, Aki Kawamura, Miho Kusanagi, Yumi Sawada, Sakae Saito, Yasuko Saito. Program evaluation: NCAS vs EEPP. 6th International Conference on Community Health Research 2015.08.20

8. Satoshi Yago, Toru Ishida, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu, Noriko Okubo: Parental agreement on and discrepancies in ratings of infants' social-emotional and behavioral problems and competencies. The 8th Congress of the Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions 2015.08.19 Kuala Lumpur, Malaysia.
9. Keiko Komoto, Catherine, Jane Martin, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu, Hiroji Okawa: Parenting support for mothers abused in their childhood in Japan, Academy on Violence and Abuse, 2014 member meeting 2014,10 Salt Lake City, Utah, USA
10. Satoshi Yago, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu: A review of child abuse prevention program in Japan, Academy on Violence and Abuse, 2014 member meeting 2014.10 Salt Lake City, Utah, USA
11. Eija PaaVilainen, Mika Helminen, Aune Flinck, Natsuko Hiroshima, Noriko Okubo, Taiko Hirose: Identifying and intervening in child maltreated in Japan and Finland. XXth ISPCAN International: Congress 2014.09, Nagoya
12. Taiko Hirose, Motoko Okamitsu, Noriko Okubo, Kumi Mikuni, Yasuko Saito, Yoshie Hamano, Kumiko Hamasaki, Yukiko Okabayashi, Michie Nagayoshi, Aki Kawamura: A preliminary parenting support: Project based on EPPP in Japan: A training program for nurses. 14th World Congress, World Association for Infant Mental Health, 2014.06 Edinburgh, Scotland
13. Keiko Komoto, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu, Hiroji Okawa: Interaction between sexually abused mothers and their children: The influence of maternal trauma 14th World Congress, World Association for Infant Mental Health(WAIMH), 2014,06, Edinburgh, Scotland
14. Satoshi Yago, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu, Michie Nagayoshi, Taeko Teramoto, Kumi Mikuni, Afsaneh Eslami, Katsuko Tanaka: NCAST training in Japan.: Concurrent training achievements and challenges for the future. The 15th Biennial NCAST Program Institute 2014.06 Seattle, USA
15. Motoko Okamitsu, Taiko Hirose, Taeko Teramoto, Noriko Okubo, Hidemi Yoshimasu, Yutaka Sato, Keiichi Morita, Ken Omura: Factors related to social support of mothers of infants with cleft lip and/or palate: International Collaboration for Community Health Nursing Research Conference 2013 March, Edinburgh, Scotland.
16. 寺本妙子, 廣瀬たい子: 親準備性促進ツールとしてのNCAST教材の有用性, 第22回日本乳幼児医学・心理学会, 2012年10月, 東京.
17. 矢郷哲志, 廣瀬たい子, 同林優喜子, 岡光基子: 乳幼児期における父子相互作用の質の特徴とその関連要因—母子相互作用, 夫婦関係との関連— 乳幼児保健学会第6回学術集会, 2012年9月, 東京.
18. 山崎智子, 川崎裕美, 三国久美, 木波智佳子, 澤田優美, 寺本妙子, 山下理子, 廣瀬たい子: つどいの広場の利用頻度とNCAST得点の関連性の検討. 乳幼児保健学会第6回学術集会, 2012年9月, 東京.
19. 白川園子, 幸本敬子, 平松真由美, 村瀬喜美子, 廣瀬たい子, 大川洋二: 小児科クリニックにおける育児支援. 乳幼児保健学会第6回学術集会, 2012年9月, 東京.
20. Michie Nagayoshi, Taiko Hirose, Motoko Okamitsu, Yukiko Okabayashi: Interactions between mother and infant with retinoblastoma: NCAST PCI Teaching Scale assessment (NCAST). The 14th Biennial NCAST Institute, Sep 2011, Washington, USA.
- 〔図書〕(計 1件)
1. 廣瀬たい子・岡光基子(監修): 日本語版 NCAFSデータ&ケースブック、2012. 乳幼児保健学会, 東京,
6. 研究組織
- (1) 研究代表者
廣瀬 たい子 (HIROSE TAIKO)
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・教授
研究者番号: 10156715
- (2) 研究分担者
三国 久美 (MIKUNI KUMI)
北海道療大学看護福祉学部・教授
研究者番号: 50265097
岡光 基子 (OKAMITSU MOTOKO)
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・助教
研究者番号: 20285448
大森 貴秀 (OMORI TAKAHIDE)
慶応大学文学部助教
研究者番号: 60276392
本間 達 (HONMA SATORU)
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・助教
研究者番号: 60361721
- (3) 連携研究者
大久保 功子 (OKUBO NORIKO)
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・教授
研究者番号: 20194102
寺本 妙子 (TERAMOTO TAEKO)
開智国際大学リベラルアーツ学部・教授
研究者番号: 2041248